

主催者企画展示

企画：ホスピタルショウ委員会 医療情報部会

場所 東5・6ホール中央

『求められる連携と地域包括ケアの充実に向けて』

今、日本において例のないスピードで高齢化が進み、なかでも本展示会のテーマにもある「連携」と「地域包括ケア」はとても重要なものとなっております。

主催者企画では、多様な連携で地域ごとに取り組まれている事例や、地域包括ケアの充実に向けた労働環境改善のための最新業務支援システムをご紹介します。

佐賀県診療情報地域連携システム「ピカピカリンク」

協力：佐賀県診療情報地域連携システム協議会／日本電気(株)／木村情報技術(株)

「ピカピカリンク」は、ID-Linkを用いた県全域の病院、診療所、調剤薬局等を対象とする診療情報共有ネットワークシステムである。平成21年に稼働開始し、3月末に公開施設13、閲覧施設226、登録患者18,055人となった。

5月には、ピカピカリンク上に電子地域連携パス機能をリリース。今後も、地域医療連携のツールとして、県全域の医療者での活用を進めていく。

しまね医療情報ネットワーク「まめネット」

協力：NPO法人しまね医療情報ネットワーク協会

「まめネット」は平成25年1月に島根県全域を結ぶ地域医療連携ネットワークとして運用を開始しました。参加施設は平成28年5月現在で医療・介護併せて768施設あります。まめネットでは医療情報を共有する「連携カルテサービス」の他、11種類のサービスを提供しておりますが、その中から地域包括ケアで活用されている「在宅ケア支援サービス」についてご紹介致します。



東京都総合医療ネットワーク（仮称）

協力：公益社団法人 東京都医師会

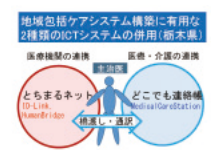
東京都医師会は地域包括ケアを実現する基盤として、既存のシステムを共通規格で繋ぐことで連携を実現する「東京都総合医療ネットワーク（仮称）」の構築を計画しております。本技術は今後ネットワーク形成を検討している他地区においても応用可能なもので、東京都で独占するものではなく、標準的なものとして普及させる価値があり、幅広く周知したいと考えています。



2つのICTシステムを併用した地域包括ケアシステム構築（栃木県の実例）

協力：一般社団法人 栃木県医師会

地域包括ケアシステム構築には、「地域医療構想」と「地域包括ケアシステム」に対応した2種類のICTシステムの併用が最も有用である。栃木県では、医療機関の連携には、ID-Link、HumanBridgeを用いた「とちまるネット」、多職種の連携には、完全非公開型・医療介護専用SNS「メディカルケアステーション」を用いた「どこでも連絡帳」が稼働中であり、その実際を紹介する。



大分県臼杵市地域医療・介護情報連携システム「うすき石仏ねっと」

協力：うすき石仏ねっと運営協議会／九州東芝エンジニアリング(株)

「うすき石仏ねっと」は臼杵市内の医療・介護施設を結ぶICTネットワークです。「石仏カード (felica card)」を提示することによる閲覧同意、カード保有率の高さ（市民の約25%）、行政機関も含めた多様な参加施設と参加率の高さおよび官民協働の運営形態など他に類をみない多くの特徴を有し、これからの地域包括ケア時代に必要とされる理想的なネットワークとして発展しつつあります。



地域医療連携システム「まごころネット」、救急医療管制支援システム「e-MATCH」

協力：(株)ウェルネス／バース・ビュー(株)

地域医療連携システム「まごころネット」は医療・介護に携わる多職種が在宅療養患者の情報を共有・コミュニケーションを取り合うために、効果と機密性を重視し機能強化しつづける医療クラウドシステムです。救急搬送支援システム「e-MATCH」は疑い疾患や緊急度により搬送に適切な医療機関を示唆し、記録の蓄積から医療の質向上に資する情報を提供するシステムです。



訪問看護師向け業務支援端末「エニフナース」、医療材料分割販売「ENIFme」

協力：東邦薬品(株)

「エニフナース」は、訪問看護記録をもとに開発した当社独自の自動音声認識システム「こえじ」を搭載した訪問看護師向けのモバイル端末です。訪問看護業務の中で記録の負担を軽減します。

「ENIFme（医療材料分割販売）」は、在宅医療における医療材料の供給システムです。

約10,000品目を1本・1枚から供給するシステムにより、在庫負担、廃棄を減らすことが可能です！

Pepperによる多言語アナウンス

協力：ソフトバンク(株)／フューブライト・コミュニケーションズ(株)

企画展示入口では、Pepperによる主催者企画のご案内を「日本語」と「英語」の2か国語でおこなっております。

